

週日の説教

金 大烈 神父 2011年5月26日(木)

《心を上手に使うために 一神様の愛にとどまりましょう》

これは、1880年代にアメリカで起こった出来事だそうです。事実かどうか確かめる方法はありませんが、そのように言われています。

エマヌエル・ニンガという貧しい画家がいました。ある日、彼は食料品を売っている店へ行き、野菜の代金として10セントの紙幣を支払いました。しかし、そのお金を受け取った店員は、すぐに「偽物だ」と気付きました。なぜならば、緊張した画家の汗で紙幣がぬれてしまい、絵がにじんでいたからです。店員が警察に連絡し、エマヌエル・ニンガは逮捕されて警察に連れて行かれました。その紙幣はとても細かいところまできちんと描かれていて、見ただけでは本物か偽物か判断できないようなものだったそうです。しかし、汗で絵がにじんだために気付かれてしまったのです。

警察ではいろいろな取り調べがあり、時間がかかりました。その間に、「エマヌエル・ニンガが描いた三枚の肖像画が競売にかけられ、1枚が5000ドルで落札された。」

という連絡がありました。1枚5000ドル、3枚合わせれば15,000ドルです。1880年代といえば、今から100年以上前です。その頃の15,000ドルといえば、今では想像できないような大きな金額です。その後、彼の言葉が新聞に載せられたそうです。それは、「私がこの1枚の偽物の紙幣を描くために費やした時間は、5000ドルで落札された1枚の肖像画を描くのと同じ時間でした。しかし、1枚は私を犯罪者に、別の3枚は私を立派な画家として有名にしてくれました。私は本当に後悔しています。自分の才能(タレント)をどのように使うか、その目的によって、このように天と地ほどに分かれてしまうのです。私は本当に今までの人生が悔しくて、しかたがありません。」という反省の言葉だったそうです。

私たちも、一人ひとりみんな違う賜物を神様からいただいています。聖書の言葉で言えば、「タレント」、普通に言えば「才能」です。その賜物の中で一番素晴らしいものは何だと思えますか。誰でも持っていて、それによって人が幸せになるか不幸になるかが決まるもの。神様からいただいた一番素晴らしい賜物。それは『心』だと思います。その『心』をどのように使うかによって、自分が天国にいるか地獄にいるかが分けられるのだと思います。では、『心』を、自分のためにも周りのためにも活かせるように上手に使うには、どうすればよいのでしょうか。信者として、『心』を良くするためには、何が必要なのでしょう。

今日の福音(ヨハネ 15・9-11)で、イエス様が「わたしの愛にとどまりなさい。」とおっしゃいました。この言葉を身につけられれば、どんな環境でも、どんな選択の時でも、一番ふさわしくて一番自分らしい、神様からいただいた賜物として、『心』を使おうとすることができるのではないのでしょうか。しかし、私たちはあまり意識をしていません。ほとんど意識していません。ですから、何かにぶ

つかった時にすぐ本能的な反応を見せてしまいます。しかし、救いというものは、心の救いから始まるのではないのでしょうか。復活されたイエス様が初めておっしゃったのは「平和があなたがたとともにあるように。」でした。その平和が私たちのものになるかどうかは、私たちの心がどちらに向いているかによって決まるのだと思います。

今日の福音を読んで一つだけ思ったのは、“私たちが上手く生きているかどうかは、いただいた心をどのように使っているかで決まる”ということです。私たちの心が、正しく、ふさわしく、み旨に適うものになるために、神様、イエス様の愛にとどまるしかないのではないのでしょうか。

ありがとうございました。